

お父さんが教えてくれたこと

神奈川県 川崎市立麻生小学校六年

伊東 遼大

今、一番ありがたいと言いたいのは、お父さんです。ぼくは、生まれてものごころつくころからお父さんはいませんでした。そのため、お父さんがしてくれるだっこ、おんぶ、かたぐるまやお父さんの温かさ、大きさなどをぼくは知りませんでした。しかし今はちがいます。お母さんが再婚して新しいお父さんができたのです。お父さんは生まれた時から障害を持ったぼくを心よくむかえてくれました。時にはきびしく、時にはやさしくというのは今まで味わったことのない不思議な初体験でした。以前は朝起きるのが面倒くさくて寝坊をしたり、夜は部屋で絵を書いたり本を読んでいることが多かったけど、今ではお父さんが会社から帰宅するのがとても待ちどおしく、毎晩家族で話をしています。さらに苦手だった朝起きるのさえ楽しくなっています。

とてもうれしかったのは、学校で「苗字が伊東になりました」と先生が説明して

くれたときです。クラスのみんなが「ワー」と拍手してくれたときぼくは思いました。「ぼくにもお父さんができたんだ」と。なんだかすごくうれしい気持ちになつて涙が出そうになったのを覚えています。

ぼくは、病気を治すための手術でしょっちゅう入院することがあります。以前はいつもお母さんが手術室までつきそってくれましたが、どことなくさみしいような気がしていました。しかし、今ではあの大きな体でぼくを思いきりだきしめ「がんばって来い。」と言ってくれるお父さんも一緒です。この力強さと言葉がぼくにどれだけの勇気をあたえてくれたかは、とてもいい表せません。手術が終わって目が覚めた時も大きな手でぼくの手をしっかりにぎりしめてくれていて「よくがんばったな。」と言ってくれます。ぼくはこれからまだ続く手術もこわくありません。こんなにすばらしいお父さんとお母さんがいてくれるからです。

今までお母さんとお兄ちゃんの三人の生活もすごく楽しかったけど、今の方がもっともっと楽しいです。これから一生けんめい勉強もしてたくさん友達も作つて、お父さんのようなカッコよくて優しい大人になれるようがんばりたいです。

「お父さん、ありがとう」